

第1号議案

2022年度 活動報告

●はじめに

コロナ禍にあつて、2022年度は初めてコロナによる休校もなく、何とか1年間無事に学習を進めることができた年になりました。

そんな中で将来を見据え、コーダイスタッフが先頭に立ってコーダイを大きく変えていこうというニューコーダイ創造活動を推進してきました。しかし、まだまだベクトルは合っていないと思いますが、少しずつ成果が出始めていると思っています。

次年度以降、この成果を目に見える形でコーダイ関係者に感じていただけるように、今まで以上にコーダイ運営をしっかりと行います。

●基調報告

1. ニューコーダイ創造活動に取り組んでいますが、活動はスタッフ迄で全校的な展開に至っていません。しかし、少しずつ成果が出始めています。次年度は全校的な展開にまで落とし込み、成果を目に見える形で実感していただきます。
2. ニューコーダイ創造活動の一つに「CDの皆さんが力を発揮し易い環境を創る」というテーマがあります。活動の結果、校外学習の費用助成、PCの総入れ替え、使い易いワゴンへの置換、CDのワークスペース確保、カウンセリング窓口の準備、CD業務災害賠償保険加入、通年CD研修等を実施致しました。次年度は更に、一つ一つ着実に効果を上げていきます。
3. 3年ぶりにコーダイのビッグイベントであるジョイフルゲームズ、コーダイフェスタを実施致しました。受講歴3年以下の方が57%も占める中で、イベント内容が十分に浸透していない部分も見られました。次年度以降のコーダイビッグイベントを検証し、楽しいビッグイベントになるように検討致します。
4. 科目の新陳代謝を積極的に推進し続けてきた結果、新規科目を含め多くの科目で狙い通り受講生の関心を掻き立て、その結果が応募状況に顕著に表れています。今後もこの方針をしっかりと堅持し、受講生の満足度を高めていくように致します。
5. 一方では受講生に26コマのテーマ以外に、各人の興味のあるテーマを受講していただくために、他大学との連携講座を含め11回の市民公開講座を実施し、多数の申込者がありました。しかし、狙いの一つであるコーダイの知名度アップや新人の応募促進に結び付ける効果を期待した一般市民からの申込数は、我々の予想を下回る結果となりました。今回の経験を次年度以降に活かしていきます。
6. 受講生の声を科目に反映し易い仕組みとして、今年度から各科ごとの科目内容に関するアンケートを実施しました。アンケート結果は次年度の同科のCD、受講生にも伝え、今後の科目開発、カリキュラムのバージョンアップ、クラス運営に結び付けてい

きます。

7. デジタル化による業務の効率化はスキルの問題もあり、効果が顕著に表れる結果にはなりませんでした。次年度以降も引き続き挑戦致します。
8. 事業部門は事業を絞り込んだ活動を行い、活動の効率化に取り組んできました。まだまだ課題がありますが引き続き検討し、一般市民から好評を博しました「大阪桐蔭高等学校吹奏楽部の演奏会」のように、参加者の皆さんの満足度を高められるような事業に取り組んでいきます。KOUDAI AWARDの内容検証も完了し、今後は多くの皆さんに応募していただけるように努めていきます。
9. 子ども事業のビッグイベントである子ども科学フェスタは、コロナの影響で中止せざるを得ませんでしたが、他の活動は順調に実施することが出来ました。今後はもう少し余裕のある活動・幅広い活動が出来るように活動内容を検証致します。
10. ファンドは寄附金徴収の制度を一部見直した結果、年初から多くの皆さんのご協力により、認定NPOを維持するための件数を大幅に上回る315件ものご寄附がありました。皆さんに感謝申し上げます。
11. 広報はコーダイの顔として世の中にコーダイの認知度を高める活動をしてきましたが、まだまだ成果が出るどころまでいっておりません。今後もいろいろな施策を考えながら関連部門と協働で、世の中にコーダイの認知度を高めていきます。
一方では、広報誌「れいんぼー」は見易くなったとの声を聞いています。
12. 財務システムも精度の高い予測が可能な状況までほぼ出来上がりつつあり、より精度アップを目指します。また、認定NPOに関する大阪市の更新審査も無事終了し、引き続き認定NPOとして活動することが出来るようになりました。
13. 戦略企画室は本年度で活動を休止し、今後は必要に応じてプロジェクトや委員会を発足させ、組織全体で対応することにしました。
14. なにわの宮会を中心に「皆で語ろう、明日のコーダイ」というタイトルで59科の教室を訪問致しました。訪問時の質疑応答でコーダイについて、少しは理解を深めていただいたように思っていますが、まだまだ十分にコーダイの方針等が伝わっていないことを実感しました。次年度以降この点を改め、スタッフ⇒CD⇒受講生の流れでしっかりと理解していただけるような仕組みを創って行きます。なお、なにわの宮会の活動は本年度で休止致します。
15. コーダイの理念にある地球環境問題にプロジェクトを発足させて取組み、まず手始めにコピー、チラシの削減に取り組んでいますが、活動途上でもありまだ顕著な成果が出る状況に至っていません。多くの皆さんの意識改革が成果に結びつくと思っており、今後も引き続き活動致します。一方では、倉庫の断捨離も行いCDのワークスペースを確保することが出来ました。
16. 従来から問題のある午後の時間の活動にメスを入れ、午前の授業だけでなく午後の自主活動時間も十分楽しめるように、現場を預かる教育部門が中心になって取組み、CDのサポート、特に新人CDのサポートも含めてしっかりと対応します。
昨年同様、目配り・気配り・心配りでスピーディかつタイムリーな現場対応を推進し

ながら CD と協働して快適な学習の場を構築していきます。

17. 経理部は人材を投入し、経理業務の効率化と精度アップを図りながら、財務システムの強化を推進しています。同時に各部門長が自部門の経費についてしっかりと管理できるように継続して指導していきます。
事務局は縁の下の力持ちとして、よりきめ細かいサポートに努めます。また、重要書類・設備等の整備と管理について、各部門を指導しながら整備と管理の徹底を図ります。
18. コーダイグループである大阪区民・府民カレッジ、校友会と協働し、グループの在り方も含めて課題を検証しながら、コーダイグループの強化と相互発展を推進出来るように努めます。
19. コロナ禍で活動が停滞している関西シニア大学校・大阪シニア大学校交流会については、活動内容を検証しながら更なる深化を追及し、コーダイのレベルアップに繋げていきます。

最後に、コロナ禍を機にコーダイは「ニューコーダイ創造」という大きな改革にチャレンジしています。しかし、それは一人では出来ません。多くの皆さんの協力と支援が必要です。残された時間は余りありません。同時に改革のスピードも求められています。結果を焦り過ぎず、前のめりにならず、地に足をしっかりと付け、一步一步着実に目に見えるような結果を本年度中に出していきます。

●教育部門

<教務部>

今年度の基本方針は、受講生の満足度を高めるために CD と一体になって任に当たることを念頭に、CD の皆さんと教育部門の垣根を低くしていくこと、そして、協働していくことに主眼を置きました。

昨年来の課題となっている午後の時間の満足度を高めるために、自主企画活動の設定にあたり、科のコンセプトにあった内容で設定するように軌道修正を図り、自主活動のあり方についても説明を重ねるとともに、教務委員会が中心となって CD からの意見を取り纏め、次年度は CD の皆さんが受講生と向き合っスムーズに午後の時間を運営出来るような仕掛け作りを図りました。

また、CD の皆さんが希望を持ってストレスなく活動出来るように、環境改善に努めました。一つは教室機材を運ぶキャリーカートの新調。更に、CD コーナーの設置、パソコンの更新と順次改善を図ってきました。

各教室で受講生と向き合っている CD の皆さんには、コーダイの重要なポジションを担っていただいています。そのため、コーダイの正会員となって理念や方針に沿って活動していただきました。万一の業務障害に対しては保険求償にて対応出来るよう、スタッフと同様に付保を進めました。ボーンとなる研修にも力を入れ、新任時の研修から通年

研修にて、個々人のためになる内容を取り入れ、結果的にコーダイのために繋がる研修を用意しました。

新年度に向けては、CDの皆さんからの意見を取り入れ、CDマニュアルをバイブル的に活用していただけるように見直し、必要資料等は電磁ファイルで交付出来るように改善を進めています。

感染症対策として、コロナ禍3年にわたりましたが、休校とならないようコロナ感染予防対策を徹底した結果、コロナ関連休講者は年間で50人程の発生に抑えることが出来ました。感染拡大の恐れから、一部クラスで臨時休講措置を執ったもののクラスター発生は抑えられました。

コロナ禍でのジョイフルゲームズやフェスタが、プランニングに時間を要したことは、学習事業を知らない新入生の委員長が多く就任していたことと重なり、クラスへの周知が充分に行き届いていなかった模様です。実行委員会には十二分の活動をしていただきましたが、結果的に受講生の満足度は想定通りに進みませんでした。

また、他部門と連携しながら受講生の意見を吸い上げ、カリキュラムのバージョンアップを図るアンケートを実施、魅力ある充実したカリキュラムとなるよう連携して取り組みました。

<教務事務部>

教務部と連携しながら講師承諾書、講座実施報告書等の書面を元に、謝金等の計算など行い、二重チェックを徹底するとともに、スムーズな運営に努めました。経理部署にある個人データベースの活用を含め、今後の事務改善に取り組んでいます。

<学習事業推進部>

学習事業についてビッグイベントである「ジョイフルゲームズ」は、長居陸上第2競技場で10月14日(金)晴天の下、炎天下での開催となりました。メインスタンド側で開催予定でしたが、改修工事が開催日にかかり、工事箇所を避けるために全面を利用した結果、音響や視認性の問題が指摘されました。ゲーム内容は走ることがないようなルールでしたが、競争心のためか走る出場者があり、一部転倒による骨折報告がありました。

また、「コーダイフェスタ」については、曜日別開催として11月14日(月)から18日(金)までの5日間、教育会館7階ホール、5階パレストラをメイン会場として実施しました。コロナ感染対策として、各部屋への入場枠制限を設け、会場での食事禁止、原則登校曜日のみの参加として開催しました。各曜日とも展示など力作揃いであり、発表会場も一時的でしたが、ほぼ満席状態も見られました。

コロナ禍でしたが、両催事とも盛況裡に実行出来ました。実行委員の皆さんに感謝致します。

●教科研究部門

教科研究部門の重要な使命は、受講生に魅力的で楽しい講座を提供することと考えています。受講生の知識欲・探求欲・スキルを高めたいという要望に応えることにあります。

コーダイの『学び』の最大の魅力は、他の同種の生涯学習機関と比べると、本科・実践科・シルバーアドバイザー養成講座の3講座12分野と多様で充実した科目揃いの講座を開講していることにあります。しかし、それに安住することなく常に新鮮で充実した内容・講座、『積極的な科目の新陳代謝を図り、科目力を高めること』となるよう、努めなければならないと考えています。

本年度は、教科研究部門の活動及び全部門からなる講座改革委員会の活動の2本の柱を基本に以下のように行いました。

1. 講座改革委員会を定期的開催し、現行科目の課題についてカリキュラム特に講義内容・講師についてまた、過年度からの各科目の応募状況等、幅広い観点での評価・議論・検討を重ね、次年度の講座として継続か、休講すべきか等について審議しました。
2. 講座のマンネリ化や陳腐化を排除し、魅力的な講座を開講することを目的に新規提案制度を設けています。提案様式についても改良を行い、新規性のある内容かつ集客力のある提案を募集致しました。その結果、本年度は本科5件・短期講座6件が受講生やスタッフからありました。それらの採択について講座改革委員会の個別検討チームでの検討等、多重的に審議・検討しました。
3. その基盤として、12分野の各分野担当部長が主管する担当分野について、各科目担当クラスディレクター（以下、CD）を交えた専門部会における、個々の科目の講義内容や講師の講義力についての評価や課題の報告を受け、それらの情報を講座改革委員会全員で共有化して、次年度の講義内容や講師の見直し等の検討をしました。
4. その結果、休講とした科目もありました。一方、新規科目として6科目・科名改称科目11科目・現行科目を統合して、新たな講座内容の講座として再構築した科目3科目とし、継続科目を含め合計59科目とすることを講座改革委員会において決定し、募集委員会並びに理事会に提案し、それぞれ承認の上、2023年度開講することになりました。なお、分野名が科目イメージや内容とそぐわない面が生じてきたので、12分野のうち4分野の名称を受講生にとってわかりやすい名称に変更しました。
5. 2021年度から開講している短期講座は、多様化する受講生のニーズ・企業等の定年延長・働き方改革が定着する中で、『学びたいが1年間を通じて学ぶことが困難な人』のために、あるいは現受講生の中には1日を通して学ぶための時間の確保が難しい人や本科・実践科を学びながら、更に、現受講している以外の講座を学びたいというニーズがあります。それらに応えることを目的に開講しています。
6. 2022年度は6件の提案がありました。採択は個別検討チームの議論・結果を下に、講座改革委員会全員による検討を行った結果、2講座としました。課題としては、採択する上での評価項目や数値的基準が確立できていない面があります。妥当性があるのかどうか、合理的な判断になっているのかどうか、今後より厳密にしていく必要があると考えています。

その上で、2023年度は2講座の開講を予定しています。次年度以降は受講生の要望も多くあることも踏まえて、増やしていく方向で検討をしたいと考えています。

7. 受講生が受講している科目とは別に幅広く学ぶ機会を提供する・コーダイを広く知っ

てもらう・社会貢献をしていくことを目的に市民公開講座を教科研究部門として8回（コーダイ全体では11回）実施しました。

公開講座は2つの方式で進めています。1つは教科研究部門が主管するコーダイ主催の公開講座と、2つ目は2022年度新たに発足した大阪公立大学（地域連携センター）との連携による公開講座です。

8. 従来公開講座のテーマが歴史系に偏っていたこともあり、言葉と科学、防災、健康、音楽、歴史と幅広いテーマを取り上げた公開講座を開講しました。

講師として、科学者であり歌人の永田 和宏氏等、それぞれの分野における著名人を招聘しました。大坂城の魅力を探ることをテーマにした講座は3人の講師による座談会形式、また、歌声広場というテーマで講師と受講生の双方向の講座等、今まで実施していない方法での公開講座に取り組みました。連携講座である大阪公立大学杉本キャンパスでの公開講座では、大阪南部の一般市民の出席が多くみられ、開講の効果がありました。大阪公立大学内においても、連携講座の意義や効果に於いて評価されていることを先方担当者から伺っています。

受講生は受講料が無料ということで、募集に関して支障は少ないが、当日欠席が多く出て、聴講したい受講生に対して定員一杯により、お断りせざるを得ないことが再々あります。無断、非連絡による欠席者への対策が必要と考えています。

9. コーダイの魅力である多様な学びのニーズに対応した科目があるということに安心することなく、常に受講生の心に響く講座にしていくよう新陳代謝に努める必要があります。

そのために、従来のコーダイアンケートの質問から切り離して「学びに特化したアンケート」を科目単位で実施しました。この結果を次年度の科目運営を担当するCDに伝達し、講義の評価の参考に資するとともに、受講生の意見を吸い上げ、カリキュラムや科目のバージョンアップに活かします。

10. コーダイにおいても、定年延長や働き方改革により、60歳代後半世代の男性の受講者が減少しています。しかしながら、『学びたい』趣味等に興じたいというニーズに対して、現状の対応でいいのか、生涯学習機関としての在り方や講座体系、カリキュラム、とりわけ授業と自主活動等の学習事業を研究していく必要があります。

IT化の進展とコロナ禍以降、オンライン活用の講座が当たり前になってきています。しかしながら、コーダイでは全くやっていない現状です。これを今後推進していくべきかどうか、課題の1つです。さらなる研究や実例を知ることが必要と考えています。

●戦略企画室

戦略企画室は発足2年目を迎えました。理事長直轄として特命業務を最優先課題として業務に取り組んできました。本年度は下記の項目に取り組みました。

1. 理事長指示による特命事項の取り組みについて

(1) 大阪教育大学・堀教授からご依頼を受けました、日本社会教育学会編『高齢者化と

社会教育』の中でのタイトル名「シニア・ボランティアが運営する大阪府高齢者大
学校の取り組み」を共同執筆致しました。

- (2) 教育会館改築計画による教室の確保として、会館が所有している「なにわのみやホ
テル」改築計画図を基に、机・椅子レイアウトを図形シミュレーション手法を用い
て教室毎の定員を算出しました。
 - (3) 現事務所のミニマム・スペース化プロジェクト委員会を2022年12月に立上げ活動
をスタートしました。新規に入居を予定している事務所の概要計画の発表があり、
事務所のミニマム化の必要が解消しました。よって、2023年1月18日付けで一旦
委員会を中止する事となりました。
2. 第二次「中長期計画の策定」については、昨年に続き4月と5月に委員会を開催しま
した後、理事長より別件の特命業務が発生したため、中断する事となりました。
 3. 毎年度末に実施している受講生アンケートにつきましては、スマホによる回答を実施
して2年目を迎えました。昨年は実質回答率が50%を切り、解析データの信頼性に不
安がありましたが、本年度はスマホ入力のソフトの一部改善を実施して、より入力
が容易となりました。結果、70%を超える回答率アップとなり、データの信頼性が大幅
に向上しました。
 4. 阪神奈大・研究機関生涯学習ネット(大阪府主催)17校による市民公開講座が本年
度は11月に開講されました。コーダイからは文学の分野から林和清先生を派遣し
まして、テーマ「紫式部とライバルたち」にて講義をいただき、受講申込者は17講座
中No.1で、満足度の高いアンケート結果を得ることが出来ました
 5. 本年3回目となる大阪シニア大・交流会は、2023年1月24日に開催しました。
昨年までは7校でしたが、本年度は新規校として2校が加入されて9校の開催となり
ました。
 《テーマ》 (1) 2023年度受講生募集の応募状況について
 (2) 各大学の運営状況と課題
活発な意見交換の場となり、盛況な交歓会となりました。
 6. 関西圏・首都圏シニアカレッジ交流会が、3年振りに兵庫県生きがい創造協会主催で
開催されました。コーダイから関係者4名出席、全体の参加者は8校・107名。
 《テーマ》 (1) 発表：①コーダイ②徳島県シルバー大③いなみの学園
 (2) 講演：「関西圏と地域と兵庫く街かどの歴史を考える」
 (3) 初代県庁館、ひょうごはじまり館見学(昨年11月オープン)

●事業部門

これまで行ってきた事業の継続・充実と受講生の皆さんに積極的に参加していただけるよ
うな企画を目標に活動してきました。

<事業推進部>

毎年実施しています救命措置講習会においては、できるだけ多くの受講生の参加が可能となるように、大阪府の協力のもと月～金の5回行いました。

特殊詐欺被害防止対策につきましては、寸劇を交えた講習会の実施を計画しましたが、1会場での大人数の開催について、府の指導もあり断念しました。

大阪桐蔭高校吹奏楽の演奏会がやっと実現致しました。1,000人の聴衆を集め感動の時間でした。これからも機会があれば是非、若者へのエールを送りたいと思います。

認知症に関する市民講座、定例となっておりますクリスマスコンサート、そして、10年以上にわたって毎年冬に実施している大阪マラソンボランティアにも多くの受講生の皆さんに参加いただきました。

兵庫県養父市との学習事業連携も再開しつつあります。1日稲刈り体験ツアーの実施・養父市民を無料ミニコンサートへ招待等の現地での開催です。

更に、毎年養父市との契約による新米については、大阪府下の子ども食堂等への寄付を行い、感謝のメッセージが多く寄せられています。今後もコーダイの社会貢献活動としての使用に的を絞った運用をしていきます。

<BSC（ブライトシニアセンター）>

SA養成講座2科目の受講生は、依然として行動制限が続く中でも地域活動を実施され、大阪府への報告書を提出されました。府からSA認定証が授与されましたが、2022年も皆さん一堂に会した授与式は見送らざるを得ませんでした。

KOUDAI AWARDにつきましては2022年も実施を見送りました。

制度自体の改革を目指すための動きの一環として、各クラスの皆さんの社会参加活動の内容を具体的に知るために、発表会の時間に臨席させていただきました。

多くの皆さんが多彩な分野での活動をされていることを改めて認識いたしました。これらの活動内容を全受講生に知っていただくための発表の場を提供出来ないか検討をします。

また、是非特定の活動に参加したいと思われた方々へ紹介できるルートの確立も大きな課題です。

コーダイの表彰制度は現在幾つかの部門に分かれて実施していますが、これらを統一する方向で調整を始めております。KOUDAI AWARDも新しい組織の下で再スタート致します。

●子供事業部門

1. 「法円坂子どもプラザ」科学ともの作り体験型教室は2クラス延べ393人で5月・6月・7月・10月・11月・12月の計6回開催しました。
2. 「子どもプラザ高槻」は1クラス延べ170人で5月・6月・7月・9月・10月・11月の計6回開催し、「子どもプラザ堺」は未だ継続中ですが毎月1回30人の受講生で科学実験ともの作り体験型教室として開催しました。
3. 「科学フェスティバル」は法円坂・高槻・堺ともコロナ禍で中止としました。準備も整

っていましたが残念でした。

4. 伝統文化親子教室は7月・8月・9月・10月・11月で26組62名の親子の参加があり開催しました。いきいき教室は未だ継続中ですが毎月1～2回、予定通りに行いました。
5. 長居公園イベントは11月の「オータムフェアナガイ」はコロナ禍で中止となりましたが代わりに「おりぞめ体験」を開催し200人の参加者がありました。
6. コロナ禍でしたが、周辺各地区への科学実験講座の開催に努力しました。

●情報管理部門

<システム部>

1. 募集データの集計システムを通して新受講生へ合格通知の発送、入金管理にて受講生を決定後、入学案内など発送し受講生名簿・名札など入学準備の体制づくりを行いました。
2. 受講生・講師・スタッフのデータベース化により個人情報の管理運営に努めました。
3. ホームページでは動画活動及び内容の充実とビジュアル化と告知・報告のスピードアップに努めました。また、募集事項・応募状況をリアルタイムに掲載発信しました。

<デジタル化推進部>

1. コーダイネットワークシステムの推進を図り、デジタル化を進めてきました。
2. オンライン研修を中核にして他部門と協働して、オンラインに関するレベルアップに努めました。
3. オンライン会議・オンライン市民公開講座・パソコン等スキルアップ講座を開催しました。
4. 全校的な業務効率化を目指し活動しました。

<情報処理部>

1. 受講生台帳の集計管理と出席簿の学期単位のデータベース化・並びに修了証書と感謝状等、証書の発行を行いました。

●広報部・ファンド部門

<広報誌>

広報誌「れいんぼー」に関しましては、本年度は特に「ニューコーダイ創造」の広告塔の役割を目指しました。具体的には様々な分野で活躍されている受講生や、コーダイの授業で作成された作品紹介等で、いきいきとした受講生の姿を紹介し、加えて各科目の紹介等、コーダイにおける楽しみを知っていただく内容と致しました。

年4回（1、4、7、10月）発行、基本ページ数16ページ。

<パブリシティ>

昨年に引き続き積極的にマスメディアとの協力体制を強化し、CDや受講生の協力を要請してコーダイファンを増やすように努めました。

コーダイ通信を定期的に発行し、ラジオ出演や新聞掲載予告をホームページへアップする等、地道な活動によりコーダイの知名度アップを図りました。
今後、継続して各部署のプレスリリース委員による魅力的なプレスリリース作成により、マスメディアを巻き込んで、コーダイの認知度を高めていきます。

<企業対応>

新たな体制になっても継続して企業窓口との接点作りを行い、企業毎のきめ細かい関係作りを図りました。

<ファンド部>

本年度より合格通知を送付する際に、受講生の方々に寄附のお願いを行い、新たに多くの受講生の方々から寄附を頂戴する事が出来ました。今回多くの受講生の方々からご寄附をいただき、コーダイに対しての期待の大きさに身の引き締まる思いです。

今後、皆様にご満足いただける学校運営を行うように努めます。

更に、寄附での活動報告を行う事で、継続してご支援賜るように努めます。

●総務部門

「ニューコーダイ創造」の実現に向け、一人一人が何をなすべきか、前例に取らわれていないかを問いかけ各部門から頼られる「裏方」として行動する集団にチャレンジしてきましたが、少しずつ成果が出始めていると思います。

また、教室について2022年度は講座59科目を7教室(教育会館・社会福祉会館・助産師会館・梅田・大阪歴史博物館・住之江公園・寺田町)で、出来得る限りのより良い受講環境の確保に努めました。

大阪市における、認定NPO法人の更新審査も無事終了し、向こう5年間の認定をいただきました。

CD、スタッフ向けに、より多様化してくる事態に備えて「業務災害賠償保険」に加入しました。

経理部門においては、財務システムの強化と各部門における自部門の経費管理が出来るように取り組んできました。次年度の組織編成に伴い、各グループが取り組めるように引き続き精度向上に取り組めます。

一方、人材育成については「スキル系人材募集について」IT・経理系スキルの公募を行い、10数名の募集がありましたが、求めるスキル、処遇面に差異があり実現しませんでした。引き続き人材育成に努めます。

<経理部>

財務システムの強化を図るため、収支状況の「見える化」に挑戦し、各部門が自らの経費管理が出来るように取り組みましたが、各部門が経費管理出来るまでには及びませんでした。次年度も、引き続き取り組んでいきます。

一方、CDの交通費要求関係の書式が多様でありましたので、ワンペーパーで要求処理から支払いまで出来るように提案し簡素化に努めました。

<事務局>

- ・本年度も一年を通じて新型コロナ対策に注力注ぐ年となりました。感染者の報告の都度コロナ対策会議を開催し、状況の掌握と対応策を講じた結果、クラスターを発生させる事なく授業を行えることが出来ました。これは一重に関係されたスタッフ・CD・受講生の方々のご協力の賜物であり感謝申し上げます。
- ・教室に関しては大きな変化の年となりました。コーダイが事務所並びに主要教室を使用させていただいております大阪市教育会館が、長年の課題であった建物の耐震強度に関して、新耐震に適応するべく建物の建替を含める対応策を決定されました。それに伴って、来年度より工事の進捗に合わせて教室の変更が必要となります。教育会館と連絡を密にし授業に支障のないよう努めます。
- ・コーダイでは長年授業の要請に合った教室を探しております。幸いにも来年度より従来より課題であった音楽科目の教室について、一部の科目ですが音響効果が良く音楽専門ホールとして使用されています YUSHU ホールを借りる事になりました。また、スポーツ関係の科目の一部でも運動し易い環境の長居ユースホテルを使用する事になりました。
- ・防災対策につきましては、「コーダイ自主防災」のマニュアルを作成致しましたが、作成時期が遅れて各クラスへの徹底が不十分であったと反省しております。

●募集委員会

2023 年度募集は大幅な教室変更を見越した定員数の確定、それに伴う講座内容の変更を踏まえた上で開始致しました。

新規科目・講座の統一・科目名変更を行い、12 分野 59 科目及び短期講座 2 科目の募集となりました。

今回も特定の科目への集中傾向は続き、第一希望科目抽選外が 500 名になりました。

特例措置の実施可否を含め、今後の検討課題であります。

コーダイ受講が初めての方の応募の減少傾向も依然続いております。

募集活動においては、前年同様内容に応じたチームを編成し、機動性・効率性を図り、募集案内冊子の内容工夫、配布先の選定と状況確認を心掛けました。

自治体への広報依頼においては、広報内容決定時期の関係で掲載できない場合もあり、今後の課題です。

講座説明会は 8 会場で 11 回実施致しました。オープンキャンパスにつきましては、2022 年は説明会とは切り離した授業見学の形式で実施致しましたが、今後の検証が必要です。

応募期間については、これまでより少し短くしました。受講科目の決定時期を早くするとの趣旨です。更に、抽選結果発表日前に応募いただいた全員の皆様に結果を郵送でお知らせすることを目指しましたが、届かなかつたとの声もいただきましたので、日程の再調整を行います。

定員 2,370 名で最終受講者は 2,320 名でした。新人応募は 520 名です。

2,500名を超える応募をいただいた皆様に感謝申し上げるとともに、コーダイもさらなる進化を目指して頑張ります。

●コーダイ・なにわの宮会

1. なにわの宮会は第5次プロジェクトとして1年間活動致しました。
2. 途中、1名の退会があり、2名増員をして、計7名のメンバーで活動致しました。
3. 教室訪問「みんなで語ろう、明日のコーダイ」のキャッチフレーズのもと56クラスを訪問致しました。1クラスは諸事情によりペーパーベースでの質疑応答を致しました。2クラスは諸事情により訪問出来ませんでした。

訪問メンバーは理事長・若しくは副理事長・教育部門長・曜日部長で構成され、コーダイ幹部にクラスの雰囲気も見ていただき、受講生にも納得していただける質疑応答が出来ました。なにわの宮会は各クラスCDの方々との訪問メンバーの調整、仲介を致しました。訪問当日は司会と議事録を担当し、議事録は関係者への配信は勿論のこと、各部門別に受講生の声としてまとめ、理事会各位に報告致しました。

4. 新入生歓迎会はコロナの状況により、断念致しました。
5. コーダイフェスタ時に於ける物産展を開催致しました。月曜日から金曜日までの5日間に渡る催事で、なにわの宮会も初めての経験でした。冷蔵庫を必要としない、日持ちの良い商品を6か所より物産品として仕入れました。また、参入業者として4店舗を受け入れ、受講生にも喜んでいただけました。
6. 川柳は年2回（春と秋）募集を致しました。春と秋それぞれの募集作品より特選句と準特選句を選び、期末にはその中から年間特選句と年間準特選句を決定致しました。年間特選の方には盾を作り贈呈しました。年間準特選の2人にはテレホンカードを贈呈しました。とても喜んでいただけました。

選句の際に受講生にも選句いただきたかったのですが、時間的に締切りもあり、出来なかったことは残念でした。

春と秋、期末の選句された作品は、全て「れいんぼー」に掲載致しました。

あとがき

今回で「コーダイなにわの宮会」は休止となりますが、なにわの宮会のメンバーとして経験してきたこと、取り組んできたことは、これからのコーダイに於ける活動は勿論のこと、人生経験としても生かされていくものと思っています。

メンバー全員がこれらの経験を基に、「ニューコーダイ創造」という改革に、それぞれの担当分野で力を発揮していくことを信じております。